

26011-1514

令和 7 年 10 月 30 日

各関係機関の長
各病虫害防除員 殿

宮崎県病虫害防除・肥料検査センター所長

令和 7 年度病虫害発生予察特殊報第 2 号について

令和 7 年度病虫害発生予察特殊報第 2 号を発表したので送付します。

令和 7 年度病虫害発生予察特殊報第 2 号

1 病虫害名：チュウゴクアミガサハゴロモ *Ricania shantungensis* (Chou & Lu, 1977)

2 作物名：シキミ、カンキツ

3 発生確認の経過

令和 7 年（2025 年）9 月上旬に県西部のシキミ園、県央部の露地カンキツ園において、チュウゴクアミガサハゴロモと疑われる成虫及び幼虫が確認された（図 1、図 2）。農林水産省門司植物防疫所に本虫の同定を依頼した結果、本県では未確認のチュウゴクアミガサハゴロモであることが判明した。

4 国内の発生状況

本種は中国原産であり、国内では平成 27 年（2015 年※）に大阪府で初めて確認されて以降、関東以西の本州、四国及び九州の各地で発生が報告されている。農作物への被害は、令和 6 年（2024 年）に神奈川県、埼玉県、福岡県及び山梨県で、令和 7 年（2025 年）に東京都、群馬県、熊本県、富山県、千葉県、奈良県、大阪府、栃木県、香川県、茨城県、滋賀県、高知県及び広島県で確認されており、病虫害発生予察特殊報が発表されている（令和 7 年 10 月 23 日現在）。

※初確認年は春澤・宮武（2023）では 2017 年であったが、KOBAYASHI et al.（2024）により 2015 年が初確認年となった。

5 本種の特徴

（1）寄主植物

カキ、カンキツ類、キウイフルーツ、クリ、ブルーベリー、モモ、リンゴ等の果樹の他、チャ、各種植木類など多くの木本植物など、極めて広食性である。

（2）分布

中国、韓国、日本、トルコ、フランス、イタリア、ロシア、オランダ等。

（3）形態

本種はカメムシ目であり、成虫は頭頂から翅端までの体長が 13～16mm 程度、体色は暗褐色から黒色で、前翅前縁の中央部に半楕円の白斑がある（図 1）。幼虫は白色で、

腹部から白い糸状の蠟（ろう）物質の毛束が広がっている（図2）。

（4）被害

成虫及び幼虫が樹木の枝を吸汁加害し、発生が著しいと排泄物により「すす病」を誘発する。また、成虫は直径 10mm 以下の枝に樹皮を剥いで産卵するため、枝の損傷や枯死が発生することがある。産卵痕は白色で綿状の蠟物質で被覆される（図3、図4）。

6 防除対策

令和7年10月15日現在、本種を対象とした登録農薬はないため、以下の防除を実施する。

- （1）産卵された枝は切除してほ場外に持ち出し、適切に処分する。
- （2）ほ場をよく見回り、成虫や幼虫は見つけ次第捕殺する。



図1 カンキツ葉上の成虫



図2 シキミ枝上の幼虫



図3 カンキツ果梗枝上の産卵痕



図4 カンキツの枝に産み付けられた卵

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課
（病害虫防除・肥料検査センター） 山口・後藤

TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

HP : https://hinatamafin.pref.miyazaki.lg.jp/soshiki/noshi_byogai/index.html

